

報道関係者 各位

2022. 3. 1  
<配信枚数2枚>

■シンポジウムのご案内■  
東日本大震災追悼企画 いのちのつどい開催  
「災害復興支援の新しいかたち」  
～復興支援と防災・減災の発展的統合を目指して～  
日 時：2022年3月11日（金）19：00～21：00  
開催方法：オンライン（Zoom）

立命館災害復興支援室（室長：サトウタツヤ総合心理学部教授）は、3.11 追悼企画「いのちのつどい」をオンラインで開催いたします。

立命館災害復興支援室は、東日本大震災発生翌月に設置以降、学生・生徒・児童・教職員の被災地でのボランティア活動派遣のほか、企業・自治体と連携した復興支援プロジェクトや課題解決型フィードバックなどを実施し、多くの立命館関係者が学びを得てきました。「いのちのつどい」は、それらの活動の現状や、活動を通して感じたことを発信する場として、2012年から毎年開催しており、今年で11回目となります。

今回のシンポジウムでは、復興支援と防災・減災の観点で、記念講演とパネルディスカッションを行います。静岡県掛川市の久保田崇市長（元岩手県陸前高田市副市長）による記念講演をはじめ、復興支援や防災に関する研究を進める立命館大学の研究者と災害復興支援活動に取り組む学生によるパネルディスカッションを通して、本シンポジウムが、国内外で発生する自然災害に対して私たちができることを考える機会となれば幸いです。

記

日 時：2022年3月11日（金）19:00～21:00  
場 所：オンライン（Zoom ミーティングによるライブ配信）  
対 象：どなたでもご参加いただけます  
参 加 費：無料  
申 込 方 法：下記 URL よりお申し込みください。※3月10日（木）17:00 締切  
URL：https://ws.formzu.net/dist/S41371208/  
主 催：立命館災害復興支援室



書：立命館大学書道部

※詳細は別紙をご覧ください。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

●取材・内容についてのお問い合わせ先  
学校法人立命館広報課 担当：遠藤  
TEL. 075-813-8300

別紙

<プログラム> (敬称略)

19:00 挨拶

仲谷善雄(学校法人立命館総長・立命館大学長)

19:05 記念講演「陸前高田市の津波教訓から南海トラフ地震への備えへ」

久保田 崇(静岡県掛川市市長・元岩手県陸前高田市副市長)

聞き手:サトウタツヤ(立命館災害復興支援室室長・立命館大学総合心理学部教授)

19:50 パネルディスカッション「復興支援／防災・減災～大学はいかに貢献できるか～」

・西浦敬信(立命館大学情報理工学部教授)

【復興支援に寄与する研究】「避難所の快音化と減災に向けたユニバーサルサウンドスケープ社会の実現」

・泉朋子(立命館大学情報理工学部准教授)

【復興支援／防災】「思い出に共感する心の支援／誰にでも伝わる情報共有」

・川上友聖(立命館大学産業社会学部2回生)

【災害復興における大学生の役割】「チャレンジ、ふくしま塾。」で福島の今を知って  
ファシリテーター:丹波史紀(立命館大学産業社会学部教授)

<立命館災害復興支援室 2021 年度の主な取り組み>

■「0泊2時間 東北食べるツアー ～生産者と語ろう～」の開催(2021年4月～2022年2月)

東北食べる通信との連携イベント。東北自慢の食材を自宅に届け、現地の生産者とオンラインでつながり、東日本大震災から10年が経った東北を学んで・味わうオンラインイベント。のべ117人が参加しました。



第1回【食材:赤皿貝、生産者:岩手県山田町の漁師・佐々木友彦さん】(4月19日実施)

■2021年度「チャレンジ、ふくしま塾。」(2021年7月～2022年3月)

津波や原発事故を経験した福島の現状や復興について関心を寄せる学生たちが、福島や震災の復興に関わる教員や専門家から学び、フィールドワークを通じて、発信活動に取り組む正課外活動プログラム。福島県庁と立命館が連携し、2017年度に開始。学生24人が参加しました。



福島第一原子力発電所視察の様子(11月)